武蔵野

学校だより　NO. 8
令和　５年 12 月号
昭島市立武蔵野小学校
校長　大 河 原　博

武蔵野小 HP

多様性を育む

校長　大河原　博

昨日の芸術祭には、多くの地域・保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。普段、ご家庭では見ることのできない子供たちの活躍や、一人一人の思いのこもった作品をご覧いただけたでしょうか。

１８日の芸術祭の午後には、本校の学校運営協議会が開催されました。その会の委員のお一人から、図工の作品についてお言葉をいただきました。「一見すると同じような作品であっても、子供がつけたタイトルから、そのお子さんが思い描く世界観や目指すものが伝わってきます。タイトルを見た上で、改めて作品を見ると、本当に個性豊かなものになっていると感心しました。」と。その方がおっしゃるように、たくさんの作品の中から子供たちの多様性や可能性を見ることができます。

また、音楽会においても、各学年とも子供たちに多様な活躍場面を作る工夫をして発表を行いました。歌が得意な子、演奏が得意な子、踊りが得意な子、セリフや呼びかけが得意な子。それぞれの良さを生かしながら観客に魅せる演出を行いました。

昨今、社会や学校教育の現場の中でも「多様性」の大切さについて取り上げられることが多くなりました。私が子供であった昭和の時代には、戦前ほどではありませんが「多様性」という視点よりも、おそらく「統一性」が重視されていた気がします。まだ「社会で通用するための最低限の基礎を身に付けること」が求められてきたといえるかもしれません。ある一定の規格を求められ、当時あった社会に適合できる人材の育成が学校現場でも期待されてきたのでしょう。

しかし、現在の学校教育に求められているのは、変化の読めない複雑に変化する社会の課題に対応できる人材の育成です。子供たちがもともとそれぞれ違った形でもっている可能性の芽を、できるだけ伸ばし育てていくことを大切にしなければなりません。社会全体として、課題解決のために、多様な選択肢と様々な武器をもつ必要があります。教育の目標は、子供たち一人一人が、幸せな人生を歩むことができる力を育むことです。

子供たちが伸び育つためには、自分の真の姿や考え方を、安心・安全な環境で表現できることが必要です。自分を自由に表現するというのは、他人を押しのけ、自分勝手に思いを表出することとは違います。「多様性の重視」とは、自己の利益や結果を求める利己的なものではなく、違う者との共存を受け入れるという利他的な部分が重要です。自分も他人も大切にし、尊重していくことが必要になってくるのです。

学校は、授業や行事などを通して、児童一人一人がもっている「こうあるべきだ」「こうあるはずだ」という自分の中の価値観やものの見方を覆し、発見や経験を通して新たな価値観を生み出す場です。互いを理解し合うには時間も労力も必要ですが、そのチャンスを逃さず、子供たちに互い違いを受け入れる心を育み、多様で複雑な未来に対応する力を身に付けさせていきたいと思います。